

大成建設グループ次世代技術研究所/幸手で使用した秩父杉の伐採跡地において植林活動を実施 —持続可能な循環型社会の実現に向けた森林資源の再生に貢献—

2025年7月22日
大成建設株式会社

大成建設株式会社（社長：相川善郎）は、2025年2月に埼玉県（知事：大野元裕）、株式会社ウッディーコイケ（社長：小池文喜）の3者で締結した「埼玉県森林（もり）づくり協定^{*1}」および「第75回全国植樹祭応援事業」の一環として植林活動を行いました。

当社は、「人がいきいきとする環境を創造する」という企業理念のもと、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを積極的に推進しています。今回の植林活動は、大成建設グループ次世代技術研究所/幸手で使用した地域材である秩父杉を活用した伐採跡地で、森林再生と地域環境保全に貢献することを目的に実施しました。

植林には、埼玉県、幸手市、幸手市教育委員会、皆野町の職員及び児童、皆野町と森林共生の共同開発を行っているものつくり大学（行田市）の学生など約90人が参加し、約1500m²の伐採跡地に杉の苗木合計500本を植え付けました。

今後も当社は、本活動を契機に建設事業における地域材活用と森林資源の循環利用を推進し、地域の林業事業体や自治体との連携を強化し、持続可能な森林経営支援と地域社会の発展に貢献してまいります。



※1「埼玉県森林づくり協定」：

- ・埼玉県民共有の財産である森林を守り育てるため、企業や自治体、支援団体が協働で森林づくり活動を行う制度。現在までに59件の協定が締結されています。